

問1 物価が継続的に上昇する中で、消費者が自分の持っているお金でどれだけのモノを買えるかという力を何といいますか？

1. 供給力 2. 生産力 3. 購買力 4. 競争力

問2 円安によって海外からの資源や食料品の購入コストが引き上げられ、家計に負担をかける要因となる経済現象は何ですか？

1. 物価 2. 為替 3. 金利 4. 賃金

問3 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？

1. 公開市場操作 2. 預金準備率 3. 法定準備金 4. 公定歩合

問4 日本銀行が景気や物価を安定させるために、金利の調整などを行う経済上の取り組みを何という？

1. 財政政策 2. 金融政策 3. 公共政策 4. 産業政策

問5 景気の悪化やデフレからの脱却を目指し、市場への資金供給を増やす政策を行う中央銀行を何という？

1. 大蔵省 2. 財務省 3. 金融庁 4. 日本銀行

問6 市場の需給によって為替レートが変動する仕組みを何という？

1. 金本位制度 2. 固定相場制 3. 変動相場制 4. 管理通貨制度

問7 外国の通貨に対して、日本円の価値が相対的に上がることを何という？

1. 円高 2. 円安 3. 株高 4. 株安

問8 日本銀行が物価を安定させ、経済を円滑に動かすために、金利の操作などを行って調整することを何といいますか？

1. 労働政策 2. 金融政策 3. 教育政策 4. 財政政策

問9 日本円と外国の通貨を交換する際、1単位あたりの円の価値が下がっている状態を何という？

1. 円安 2. 円高 3. インフレ 4. デフレ

問10 円安になることで利益が増えやすくなる、海外へ製品を販売している企業を何という？

1. 輸入企業 2. 小売企業 3. 製造企業 4. 輸出企業

問11 円高になると、原材料や商品を海外から安く仕入れられるため、経営にプラスの恩恵がある企業を何という？

1. 輸入 2. 中継貿易 3. 輸出 4. 再輸出

問12 民間銀行の経営が行き詰まった際、日本銀行が資金を貸し出すことで連鎖倒産を防ぐ役割を何という？

1. 中央銀行 2. 政策金融機関 3. 市中銀行 4. 最後の貸し手

問13 日本銀行が景気調整のために市中銀行との間で行う、債券の売買による金融政策を何という？

1. 小切手 2. 手形 3. 社債 4. 国債

問14 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？

1. 輸出企業 2. 卸売業者 3. 小売店 4. 輸入企業

問15 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？

1. 金融 2. 財政 3. 貿易 4. 投資

答え合わせ・解説

問1	答え 3 購買力	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問2	答え 1 物価	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問3	答え 4 公定歩合	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問4	答え 2 金融政策	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。
問5	答え 4 日本銀行	日本銀行は、日本で唯一の紙幣発行権を持つ「発券銀行」であり、「政府の銀行」として国庫金の出納を扱い、「銀行の銀行」として一般の金融機関へ資金の貸し出しを行います。景気が悪い時は金利を下げるなどして、世の中に出回るお金の量を増やす政策を実施します。
問6	答え 3 変動相場制	1973年以降、主要国は通貨の交換比率を市場の需給関係に応じて毎日、毎時変動させる変動相場制へ移行しました。これにより、各国の経済情勢や金利差、政治状況によって為替レートが柔軟に動くようになっています。
問7	答え 1 円高	円高とは、例えば「1ドル=100円」だったものが「1ドル=80円」になるような状態です。これは以前よりも少ない円で外国の製品を購入できることを意味します。
問8	答え 2 金融政策	金融政策は、景気の加熱や不況に対処するための手段です。景気が良い時は金利を引き上げてお金の貸し出しを抑制し、逆に不況の時は金利を引き下げてお金の回りがすいように調整します。この操作によって物価を安定させ、経済が順調に発展するように支えています。
問9	答え 1 円安	円安とは「1ドル=100円」から「1ドル=120円」へ変化するように、外貨を買うために必要な円の量が増えることを指します。これは、円が外貨に対して安くなっていることを意味します。
問10	答え 4 輸出企業	円安になると、海外で販売する製品を同じドル価格で売ったとしても、日本円に換算したときの売上高が増えます。また、価格を下げて販売しやすくなるため売れ行きも良くなり、自動車や電機などの輸出企業にとっては追い風となります。
問11	答え 1 輸入	円高になると、海外の商品を少ない日本円で買うことができます。これにより、燃料費や原材料費のコストが下がるため、輸入企業はコスト削減の恩恵を受けることができます。また、輸入品の価格が安くなれば、家計にとっても生活費を抑えられる効果があります。
問12	答え 4 最後の貸し手	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問13	答え 4 国債	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。
問14	答え 1 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問15	答え 1 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。